

びょういんあーとぶろじえくと

2015年5月20日(水)～10月31日(土)
 12:00～18:00
<http://www.lilac.or.jp>
 011-812-8822

『びょういんあーとぶろじえくと2015』
オープニング企画

タイトル「ピエロがやってきた」

日時 2015年5月20日(水) 14:30-15:00
 会場 医療法人北志会 札幌ライラック病院 1階デイケア室
 出演 札幌ピエロフリーク

★札幌ピエロフリーク

心臓血管外科医「カズ」ことDr.明神一宏、率いる
 札幌ピエロフリーク。2012年、主婦「ボニー」と
 保母「ランラン」の3人で結成。パントマイム、踊り、
 マジック、大道芸、ジャグリング、小芝居などをち
 りばめてピエロの格好で、患者さんたちに喜んで
 もらう活動を続けています。



概要・アクセス

会場 医療法人北志会 札幌ライラック病院1F
 札幌市豊平区豊平6条8丁目2番18号
 主催 びょういんあーとぶろじえくと
 共催 医療法人北志会 札幌ライラック病院
 後援 札幌市、札幌市教育委員会
 NPO法人市民と共に創るホスピスケアの会



地下鉄 東豊線「学園前駅」下車2番出口より徒歩2分

病院の非日常性の克服、閉塞感からの解放ー

「びょういんあーとぶろじえくと」の効用のひとつをこう考えるならば、今回のテーマ「まど」には合理性があります。

「まど」の外には季節の移ろいがあります。社会の動きがあります。あるいは自由と可能性があります。だから病院に「まど」を穿つことで、患者・家族の人生時計の針の遅れを、少し取り戻すことができるのかもしれない。

けれども、「まど」の外は決して晴れてばかりいるわけではありません。嵐の日に、せっかく咲いた花々が散りゆくのを見るのかもしれない。ひっきりなしの車の往来に、巷の喧騒を思い出してしまうのかもしれない。病院がシェルターであったことに改めて気づくのもまた「まど」の機能でしょうか。

希望を託すのも「まど」、恨めしく眺めるのも「まど」。心踊らされ感わされ、診療の合間の彩りに変化が見られれば、それこそプロジェクト冥利と言えるでしょう。

今回の「まど」はどれも色鮮やかです。楽しい色でしたか、悲しい色でしたか。

ごあいさつ

「びょういんあーとぶろじえくと」は、病院にアートがあることで、病院にかかわる多くのかたに、安らぎや心のゆとりを持って過ごしていただきたいと願い行ってきた活動です。

2008年に札幌ライラック病院を舞台に始めた「びょういんあーとぶろじえくと」の開催は、2015年度で8年目を迎えることができました。本企画、第9回展『まどの向こうに』は、道内外でご活躍されている女流画家、前川アキ、山田恭代美の「まど」をモチーフとした作品を待合室に飾らせていただいています。

「あなたの窓から、暖かく柔らかな光、緑の薫りの優しい風、逢いたかった優しい声… 一日一日を乗り越えるにつれ、素敵なことが、たくさん訪れますように…」(前川アキ)

「私が創ったいくつかの絵が、まどの向こうに見える景色のように、あなたの今日の気分寄り添うことができますように…」(山田恭代美)

お二人のメッセージとアートから「自然」の持つ力強さや生きる力、大きくあたたく包みこんでくれる包容力を感じていただければ幸いです。

また、障がい者支援施設北の峯学園の皆さんの作品を、玄関ホールに展示させていただけたことに感謝いたします。制作のなかで表現される作り手のこころは、喜びでいっぱいです。

医療の現場でアートに触れ、これからも皆さんと一緒に「病院にアートがある意味」についてを、考えさせていただけますようお願いいたします。

びょういんあーとぶろじえくとスタッフ一同

<http://www.hinoma.com/hospitalart/>

スタッフ：上嶋秀俊、柴田紀恵、日野間尋子、山田恭代美、前川アキ デザイン：井上始子